

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370201547		
法人名	社会福祉法人 郁青会		
事業所名	グループホーム みつばちハウス なのはな		
所在地	岡山県倉敷市中帯江114-7		
自己評価作成日	平成21年12月9日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370201547&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ライフサポート
所在地	岡山県岡山市南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成21年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地元の幼稚園・小学校・老人クラブ等との関わり地域の行事への参加、近所の理解を得た地域の一員として生活できています。利用者の明るい表情と笑い声が溢れています。管理者・職員は、定期的にあらゆることを話し合い、認知症・介護についての勉強会を持ち、ケアの向上に努めています。職員の配置を充実させ、利用者への関わりに重点を置いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年の2月から管理者1人になり、あたらしい管理者が就任した。今までは2つのユニットが別々で運営していたが、この管理者は2つのユニットが合同で行動しようとして提案し、一つのユニットに皆が集まって催物やレクリエーションをすることにした。そして管理者は 普通の生活をしたい 明るい笑い声の溢れた生活 職員は一人ひとりが向上してもらいたい この3つを目標にホームのあり方を皆で考え実行して、今年は敬老祝賀会、忘年会を合同で開催し、特に忘年会は家族も一緒に70人位の人々が参加し賑やかに過ごす事が出来た。職員の配置が日中4人あり、職員にゆとりがあり、ケアが充実している。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域社会との積極的な交流・開かれた施設としての存在」を理念としている。管理者・職員は、理念を共通に認識している。	理念は目に付きやすい場所に掲示し、いつも念頭に置いて日々の支援に活かすよう心掛けている。管理者は言葉としてだけでなく、現場での介護の中でその都度理念の心を職員達に伝え、共有し実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人クラブ・幼稚園・小学校の人たちとの交流、ホーム周辺の方々と挨拶を交わしたり、地域の夏祭りに参加している。	小学生の社会体験“学区探検”や幼稚園児も慰問・運動会見物、習字の先生のボランティア訪問等は定着している。地位行事に出掛けたり、地域の祭りなどの神輿がホーム来る等地域との付き合いも出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進者会議での現状報告や病院受診や、買い物などの場での関わりから、地域に受け入れてもらえるよう努力している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の推進者会議でホームの現状や、利用者の方々の体調、精神面の変化、事業所の体制、等を話し合い、理解をいただいている。又そこで得た情報を職員等に伝え、介護につなげることがある。	老人クラブ会長・地域包括支援センター職員・家族等が参加して、2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。ホームの報告等をするうちに理解が深まり、地域行事の紹介を受ける等会議開催効果も挙がっている。	定期的に会議を開催できているが、今後は出席者から紹介を受ける等して、様々な分野から参加メンバーを募って見てはどうだろう。ホーム応援隊は多い方がより心強い。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の2ヶ月に一度の推進者会議への出席で、ホームの介護の現状等を細かく報告している。	何かあればその都度、市町村に相談して指導・助言を受けている。運営推進会議には包括支援センター職員が出席しているが、今後は市町村にも働きかけて、連携を深めていきたいと考えている。	ホームは市町村と連携しながら、より良いサービスを提供していきたいと考えている。市町村担当者も是非運営推進会議に出席してホームを理解し、協力関係を強めていくよう切望する
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の内容を掲示して、職員全員が意識している。身体拘束に関する施設内研修を行い意識をもってケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作り、職員ミーティングでもよく話し合い、職員研修も実施している。ホームは2階部分にあるので、安全のため階段前のドアには施錠していた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する施設内研修うお行い意識をもってケアに取り組んでいる。身体的な虐待以外に言葉や態度、介護拒否が虐待に含まれることを職員に伝えて防止に努めている。利用者の表情や身体的異常の発見にきを		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先に退所した人と今回新に後見人が決定した入居者があり、後見人の方と連絡を密にして支援していこうと思う。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書の内容を細かく説明し同意を得ている。又不安な点や質問を受ける時間を設け十分に説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情受付窓口を設けご意見を受け付ける体制を作っている。	何かあればその都度家族と相談し、毎月ホームのたよりを送付して情報を伝えている。家族参加の行事を設け、その後家族会を開催しアンケートも取っている。運営推進会議に家族も出席しているので、公の発言の場も提供出来ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議が開催され、施設長・管理者、職員の代表が参加し、グループホームの現状や職員の思いや意見を代表者に伝える体制が出来ている。	毎月の職員ミーティングや同一母体法人のグループホーム管理者会議で現場の意見をまとめ母体法人に伝えている。母体法人担当者はホームを訪れ、現場を把握し、声を聞き、運営に反映させようと努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、個々の自己評価と同時に、上司が努力した点や、勤務状況を評価し、給与・賞与に反映している。また、自己評価・自己目標の記入から、やりがいのある職場環境条件の整備づくり役立てている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護力に合わせた、施設外研修への参加と毎月1回の認知症ケアに関する施設内研修、日々の介護の場面での指導等で、認知症への理解を深めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人が運営するグループホームの運営推進者会議への相互の出席、毎月1回のグループホーム会議でのサービス内容の報告や意見交換、勉強会への参加等でサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のフェースシートや情報を職員全員が把握し、関わりを始めるようにしている。他入居者への紹介や、入居者同士の特性を考えた席の決定などで、不安にならないようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学してもらい、ホームの雰囲気、環境を見て頂こう。入居される方の姿、当ホームで暮らせるか、入居者・家族の要望、不安な点を聞き取り、ホームの方針、出来る事、出来無い事等を十分説明して理解を得るようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの方針・サービス内容、出来る事、出来無い事を説明し、納得していただく上で入居としている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に食事やお茶を頂き、テレビや新聞等の話題で共に笑ったり、感動したり、日常の洗濯・掃除・食事作り等の家事を共に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見・1日外出・敬老祝賀会・忘年会など、家族が参加する場づくり。かかりつけ医以外の受診の同行。盆、正月の外出、外泊への理解。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・親戚の人などが来所しやすいような職員、施設の雰囲気づくり。品人からの年賀状を毎年家族に出しています。	ドライブの途中で利用者の自宅を見に行き、昔海技学校校長だった人は職員が同行してホテルでの海技学校の式典に出席し、飛行機を造っていた人と飛行場へ行く等、馴染みの場との関係継続の支援を積極的に行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の特性を考えた席の配置・コミュニケーションが取りにくい利用者においては、職員が間に入りトラブルにならないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院先への面会に出掛けたり、長期入院から退院後の居場所について、再び当ホームに入居希望をされる家族や、同一法人の特養などの入居の希望などについて、相談を受けたり、支援を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人思いを聞き入れ、実行できるよう努めている。コミュニケーションの取れにくい利用者については、生活暦や、家人からの情報から推察している。	ホームは個別支援でその人の行きたい所へ連れて行く一日旅行を企画するなど、利用者一人ひとりの思いや希望を大切に支援をしている。どうする？と気持ちを聞きながらの対応も随所で見られた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦や本人の性格、既往歴など、本人の今に姿に至るまでについて、家族や入所前のケア関係者からの情報提供を基にフェースシートに落とし、関わる職員が事前に把握し、介護に当たっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣や趣味、生活暦・既往歴、性格などを職員は受け入れながら、現状の姿をプランに移し介護に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向を基に毎月ケアカンファレンスを行い職員が気づいた点やアイデアを話し合い計画に反映させている。	本人・家族から計画作成者と管理者がよく話を聞いて情報を職員に伝え、プランを作成し全員で検証している。プランのモニタリングを毎日記録し、一覧表やチェック・記号化等、簡潔で分かり易い様式を工夫していた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画を反映させて職員が情報を共有・日々確認・実行できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族の状況に合わせたサービスの提供。病気や、精神疾患で来所が困難なご家族に代わって支援する事があります。個別に気染めやパーマは、美容院にお連れしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会・生き生きクラブ・地域の幼稚園・小学校との交流。地域の夏祭りへの参加。幼稚園の運動会への参加など。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、対応内容を細かく説明し、本人及び家族の意向でかかりつけ医を決めています。	家族が受診に連れて行けない時は、ホームでも受診介助をしているので、主治医との関係も構築できている。定期的に往診に来て、利用者の健康状態をチェックしてくれる協力医院との提携もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しています。隔週で訪問看護師の訪問もあり、日頃の健康管理が充実しています。介護職と看護師が情報を共有し入居者の健康管理を行っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、まず病院関係者に情報を提供を行う。治療の状況や退院時期、退院後など医師や病院関係者と話し合いをもつなどして早期退院を目指している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針、見取りの同意書の説明を行い、理解を得ている。重度化した場合もその都度家族と話し合いを重ね、事業所の出来る事できない事、体制、ご家族の協力などを話している。	本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく家族の協力も得られるならば、全職員でよく相談して、出来る限りの支援をしたいと考えている。看護職員を配し、入院施設もあり、何かあれば24時間体制で対応してくれる協力医院の確保も出来ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの勉強会や実習などを行っている。避難訓練は、年2回行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定して年2回行っている。	消防署の協力を得て、利用者・近所の人・老人クラブ会長等も参加した避難訓練を2回実施した。消火器の使用方や通報システムを確認し、2階にははしご車が届かない等、指導・助言も受けている。	運営推進会議で災害対策について相談したり、運営推進会議の時に避難訓練を実施してみてもうどうだろう。より理解が深まり、具体的な地域との協力体制の話し合いが出来そうだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員としての守秘義務について職員全員が意識して関わっている。	袖湯に入れる袖は切り目を入れた方がいいかと利用者に聞く場面があり、しょくいんは年長者に教わる態度で接していた。人の動きをよく見ていて、さすが上に立つ仕事を長年されていた方と感心したと、利用者を表す記録も見付けた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけサービスを提供する時、手伝い・行事への参加・外出、散歩・・・本人が意思決定できるように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人に希望を聞き本人の希望に合わせた過ごし方を優先にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め・マニキュア・外出の日の服装など本人の好みに合わせた、本人の決定に合わせる様にしている。美容院への送迎を行う。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、メニューの記入、献立を共に考えたり食前のテーブル拭きや後片付けの手伝いなど、出来る事は、手伝って頂く。	利用者の好みに配慮してホームで献立を立て、一緒に国産材にこだわり買物に行き、出来る事を助け合いながら食事はとても美味しい。ミキサー食やお粥等食べやすい配慮をして、介助の必要な人には職員が付き、皆で談笑しながら食事をしていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や、病歴などを考えた食事、野菜を多く使った食事作り。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実行。自力で出来ない人、磨き残しがある人の介助や、ガーゼなどを使っての口腔家を行い口腔内の衛生管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に向けて早目のトイレの声掛け、誘導を行っている。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見てさりげなく声をかけトイレ誘導できていた。2部屋の間に一つ、計6ヶ所ものトイレがあるのも嬉しい。失禁や放尿が改善する等よくなった事例も多い。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、起床時の牛乳、野菜や根菜類の多い食事に心がけて作っている。散歩も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりに合ったゆっくりと時間をかけて入浴入浴をしているが、一日おきの入浴で時間帯は、決めている。	「どうでした？」と職員に聞かれ「いい気持ち」満足そうに利用者が答え、「わあ柚の香りがする」と嬉しそうに湯上りの利用者に声をかけるシーンがあった。評価当日は冬至、ホームは柚湯にして楽しい入浴を提供していた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に自室に出入りでき、一人ひとりの生活パターンで食後短時間横になる人、夕食後早々自室に戻る人、横になりテレビを観る人、テレビを観ながら眠りにつく人遅くまでリビングで過ごす人、と睡眠に入る時間帯もさまざまである。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理、確認を行っている。薬情を見やすいところに置き、職員がいつでも確認できるようにしている。朝・昼・夕・眠前と区分けを確実な服薬に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、食事の下ごしらえ、洗濯たたみ、テーブル拭き、・・・出来る事に参加していただく。買物、畑仕事、散歩、ドライブなど、気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、近所の知人の家に花を見に行ったり、一日外出では、本人の希望で大型スーパーで買物をしたりした。	初詣や花見等季節の行楽、運動会や夏祭りなど地域行事以外に、個別支援の1日旅行・ドライブ・外食・買物等、ホームは積極的に外出支援を行っている。レクリエーション記録やホームのたよりを見ると、その時々楽しそうな様子がよく分かる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来る人は、個人で持っており、自分で支払いをしてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に携帯電話があり家族と連絡が取れるようになっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング、いつでも出入りできる台所、フロアーに6箇所のトイレがありゆったりと過ごせるようになっている。もちろんリビング居室、浴室は、冷暖房完備である。広い窓から隣接するアパート人の洗濯物を干す様子や、屋外の天気などが伺える。	習字や塗り絵作品等を掲示し、季節感溢れるサンタ人形やツリーを飾り、親しみやすい雰囲気になっている。食事以外に窓際に沿ってソファを配し、気分に合わせて居場所も多い。回廊式の造りの廊下をぐるりと歩けば、良いいりハピリになる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの所定の場所の他にリビングの壁側にソファーや椅子を多く置き、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみの物や、好みの物を置いている。子供や孫の写真、若い時趣味で作った作品などで自室を飾っている。	洗面所とナースコール、クローゼットは備え付けで、大きな窓もあり、明るい感じがする。塗り絵作品や日本人形、お気に入りの縫いぐるみを飾る人やテレビ・机などを持ち込む人もいて、その人らしい居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	じしつの入り口には、表札を出し、自室の確認が出来るようにしている。トイレ、浴室、廊下には、手すりをつけ、安全に移動できるようにしている。部屋の中は、一人ひとりに合わせたベッドを使用し、呼び出しのコールも設置している。		